

伝記でたどる

戦国人物  
900人

金吾頼重の戦国物語

大方  
大言

石田三成軍將

# 凡 例

## 1. 本書の内容

本書は、戦国時代から安土桃山時代に主に活躍した人物の伝記・評伝類を集め、被伝者の五十音順に排列した図書目録である。

## 2. 収録の対象

- (1) 1990年（平成2年）から2023年（令和5年）までに日本国内で刊行された伝記、評伝、日記、書簡等の図書を収録した。
- (2) 児童書、展覧会図録、ムック類は原則として収録しなかった。
- (3) 収録した図書はのべ4,566点、見出しに立てた被伝者は947人である。

## 3. 見出し

- (1) 被伝者の本名、別名（通称、号など）のうち、原則として一般に最も知られているものを見出しとして採用し、必要に応じて不採用の名からも参照を立てた。
- (2) 生没年と肩書きや簡略なプロフィールを示した。
- (3) 人名の読みは各種人名事典、伝記資料などに拠った。
- (4) 人名の読みは現代仮名遣いに拠った。また、ぢ→じ、づ→ずに統一した。

## 4. 見出し排列

- (1) 見出しの排列は、姓・名をそれぞれ一単位とし、姓の読み・名の読みの五十音順とした。
- (2) 濁音・半濁音は清音とした。促音・拗音は直音とみなし、長音符（音引き）は無視した。

## 5. 図書の排列

- (1) 各見出しのもとでは出版年月の新しい順に排列した。
- (2) 同一出版年月の図書は書名の五十音順に排列した。

## 6. 図書の記述

記述の内容および記載の順序は以下の通りである。

書名／副書名／巻次／各巻書名／著者表示／版表示／出版地（東京以外を表示）／出版者／出版年月／ページ数または冊数／大きさ／叢書名／叢書番号／注記／定価（刊行時）／ISBN（㉑で表示）／NDC（㉒で表示）／目次／内容

## 7. 索引

### (1) 家臣団・家別索引

- 1) 本文で見出しとした人物を関わりのある家臣団・家ごとに分け、人名と掲載ページを示した。家臣団・家名は五十音順に排列した。
- 2) 一部の家臣団の下に、四天王などの名数を個別に立てた。一部の人名に、家との関係がわかる補記を〔 〕囲みで付した。

### (2) 地域別索引

- 1) 本文で見出しとした人物を関わりのある地域に分け、人名と掲載ページを示した。地域名の下、旧国名（都道府県）を北→南の順に排列した。
- 2) 地域分けは「北海道・東北」「関東」「甲信越」「東海」「近畿」「中国」「四国」「九州・沖縄」とした。

- (3) 各索引での人名排列は、本文の排列に則った。

## 8. 書誌事項等の出所

本目録に掲載した各図書の書誌事項等は、主に次の資料に拠っている。

データベース「BookPlus」

JAPAN/MARC

TRC MARC

目次

【あ】

愛洲 移香(惟孝) ⇒愛洲 久忠(あいす・ひさただ)を見よ  
 愛洲 元香齋(小七郎) ⇒愛洲 宗通(あいす・むねみち)を見よ  
 愛洲 久忠……………1  
 愛洲 宗通……………1  
 葵下坂 康継 ⇒越前康継(1代)(えちぜんやすづく)を見よ  
 赤井 輝子 ⇒妙印尼(みょういんに)を見よ  
 赤井 直正 ⇒荻野 直正(おぎの・なおまさ)を見よ  
 赤尾の道宗 ⇒道宗(どうしゅう)を見よ  
 赤沢 朝経……………1  
 赤沢 長経……………1  
 明石 掃部……………2  
 明石 全登(守重) ⇒明石 掃部(あかし・かもん)を見よ  
 赤松 洞松院……………2  
 赤松 則房……………2  
 赤松 晴政……………3  
 赤松 広英……………3  
 赤松 広通 ⇒赤松 広英(あかまつ・ひろひで)を見よ  
 赤松 政則……………3  
 赤松 政村 ⇒赤松 晴政(あかまつ・はるまさ)を見よ  
 安芸 国虎……………3  
 秋月 種実……………3  
 秋田 実季……………4  
 秋田 愛季 ⇒安東 愛季(あんどう・ちかすえ)を見よ  
 秋山 虎繁……………4  
 秋山 信友(晴近) ⇒秋山 虎繁(あきやま・とらしげ)を見よ  
 明智 左馬助 ⇒明智 秀満(あけち・ひでみつ)を見よ  
 明智 秀満……………4  
 明智 熙子……………5  
 明智 光秀……………5  
 浅井 亮政……………10

浅井 長政……………10  
 浅井 初 ⇒常高院(じょうこういん)を見よ  
 浅井 久政……………11  
 朝倉 景隆……………11  
 朝倉 貞景……………11  
 朝倉 宗滴……………12  
 朝倉 孝景……………12  
 朝倉 敏景 ⇒朝倉 孝景(あさくら・たかかげ)を見よ  
 朝倉 教景 ⇒朝倉 宗滴(あさくら・そうてき)を見よ  
 朝倉 義景……………12  
 浅野 長政……………13  
 浅野 幸長……………14  
 朝日の方 ⇒旭姫(あさひひめ)を見よ  
 旭姫……………14  
 足利 氏姫 ⇒古河姫君(こがひめぎみ)を見よ  
 足利 成氏……………15  
 足利 高氏 ⇒足利 高基(あしかが・たかもと)を見よ  
 足利 高基……………15  
 足利 晴氏……………16  
 足利 政氏……………16  
 足利 義昭……………16  
 足利 義明……………18  
 足利 義澄……………19  
 足利 義植……………19  
 足利 義輝……………20  
 足利 義晴……………21  
 足利 義尚……………22  
 足利 義榮……………23  
 足利 義政……………23  
 足利 義視……………25  
 芦田 信蕃 ⇒依田 信蕃(よだ・のぶしげ)を見よ  
 芦田 信守……………25  
 蘆名 盛氏……………26  
 蘆名 盛隆……………26  
 阿蘇 惟豊……………26  
 阿蘇 惟将……………26  
 安宅 神五郎……………26  
 安宅 神太郎……………26  
 安宅 冬康……………26  
 阿茶局……………27  
 穴沢 雲斎(主殿助) ⇒穴沢 盛秀(あなざわ・もりひで)を見よ  
 穴沢 盛秀……………27

穴山 信君 ⇒穴山 梅雪(あなやま・ばいせつ)を見よ  
 穴山 梅雪……………27  
 姉小路 嗣頼 ⇒三木 良頼(みつぎ・よしより)を見よ  
 姉小路 頼綱 ⇒三木 自綱(みつぎ・よりつな)を見よ  
 甘粕 景持……………28  
 尼子 経久……………28  
 尼子 晴久……………29  
 天野 康景 ⇒朝倉 宗滴(あまの・こうけい)を見よ  
 甘利 虎泰……………30  
 荒木 だし……………30  
 荒木 村重……………31  
 有馬 玄蕃頭 ⇒有馬 豊氏(ありま・とようじ)を見よ  
 有馬 豊氏……………32  
 有馬 晴純……………32  
 有馬 晴信……………32  
 有馬 義貞……………32  
 有馬 義純……………33  
 安国寺 惠瓊……………33  
 アンジロー……………34  
 安枕斎守 肱 ⇒畠山 維広(はたけやま・つなひろ)を見よ  
 安東 実季(太郎) ⇒秋田 実季(あきた・さねすえ)を見よ  
 安東 愛季……………35  
 安藤 直次……………35  
 安養院 ⇒池田 せん(いけだ・せん)を見よ  
 安楽庵 策伝……………35  
 井伊 直親……………36  
 井伊 直虎……………36  
 井伊 直平……………39  
 井伊 直政……………39  
 飯尾 宗祇 ⇒宗祇(そうぎ)を見よ  
 飯篠 長威斎……………42  
 池田 貞正……………42  
 池田 せん 道与……………42  
 池田 恒興……………42  
 池田 輝政……………43  
 池田 長正……………44  
 池田 信輝 ⇒池田 恒興(いけだ・つねおき)を見よ  
 池田 信正……………44  
 生駒 吉乃……………44  
 生駒 親正……………44  
 石川 数正……………45

石川 五右衛門……………45  
 石川 康長……………46  
 石田 三成……………47  
 以心崇伝……………50  
 出田 親基 ⇒城 親基(じょう・ちかもと)を見よ  
 和泉守 国貞 ⇒国貞(くにさだ)を見よ  
 出雲 阿国……………51  
 伊勢 貞孝……………52  
 伊勢 貞親……………52  
 伊勢 貞陸……………52  
 伊勢 貞宗……………52  
 伊勢 宗瑞(新九郎・盛時) ⇒北条 早雲(ほうじょう・そう'un)を見よ  
 板垣 信方……………52  
 板倉 勝重……………53  
 板倉 重昌……………53  
 板倉 岡 江雪斎……………53  
 市 ⇒お市(おいち)を見よ  
 一条 兼定……………54  
 一条 兼良……………54  
 一条 信龍……………54  
 一条院 覚慶 ⇒足利 義昭(あしかが・よしあき)を見よ  
 一休 宗純……………55  
 以天宗清……………58  
 伊東 一了斎……………58  
 伊東 祐益 ⇒伊東 マンシヨ(いとう・まんしよ)を見よ  
 伊東 マンシヨ……………59  
 伊東 義祐……………60  
 伊東 義益……………60  
 伊奈 忠次……………60  
 稲葉 一鉄……………61  
 稲葉 良通 ⇒稲葉 一鉄(いなば・いつてつ)を見よ  
 猪苗代 兼載……………61  
 今井 宗久……………61  
 今井 道与……………62  
 今川 氏真……………62  
 今川 氏親……………63  
 今川 氏輝……………63  
 今川 義忠……………64  
 今川 義元……………64  
 今村 慶満……………66  
 芋川 親正……………66  
 五郎八姫……………66  
 色部 勝長……………66

岩井 信能……………67  
 岩城 貞隆……………67  
 岩城 親隆……………67  
 岩城 常隆……………67  
 岩佐 又兵衛……………67  
 石成 友通……………68  
 岩松 家純……………68  
 胤舜……………69  
 上杉 顕定……………69  
 上杉 景勝……………69  
 上杉 景虎……………71  
 上杉 謙信……………71  
 上杉 定実……………76  
 上杉 定正……………76  
 上杉 為景 ⇒長尾 為景(ながお・ためかげ)を見よ  
 上杉 朝良……………76  
 上杉 憲政……………76  
 上杉 房定……………76  
 上杉 房能……………77  
 上田 重安 ⇒上田 宗箇(うへだ・そうこ)を見よ  
 上田 宗箇……………77  
 上野 信孝……………77  
 上原 元秀……………77  
 宇喜多 詮家 ⇒坂崎 直盛(さかざき・なおもり)を見よ  
 宇喜多 興家……………78  
 宇喜多 忠家……………78  
 宇喜多 直家……………78  
 宇喜多 秀家……………79  
 宇喜多 秀隆……………80  
 宇喜多 能家……………81  
 宇佐美 定満……………81  
 内ヶ島 氏理……………81  
 宇都宮 成綱……………81  
 宇都宮 鎮房……………81  
 宇都宮 忠綱……………82  
 宇都宮 豊綱……………82  
 埋忠 明寿……………82  
 浦上 則宗……………82  
 浦上 政宗……………82  
 浦上 宗景……………82  
 浦上 村宗……………83  
 上井 覚兼……………83  
 雲光院 ⇒阿茶局(あちやのつほね)を見よ  
 海野 信親 ⇒武田 竜芳(たけだ・りゅうほう)を見よ  
 英勝院……………83

惠瓊 ⇒安国寺 惠瓊(あんこくじ・えけい)を見よ  
 越前康継(1代)……………83  
 江戸 忠通……………84  
 江戸 通泰……………84  
 圓久尼……………84  
 遠藤 基信……………84  
 円融院……………84  
 お市……………84  
 お犬……………86  
 応其 ⇒木食応其(もくじきおうご)を見よ  
 黄梅院……………87  
 お江戸 ⇒崇源院(すうげんいん)を見よ  
 大石 定重……………87  
 大石 定久……………87  
 大石 道俊 ⇒大石 定久(おおいし・さだひさ)を見よ  
 大井の方……………87  
 大井方人 ⇒大井の方(おおいのかた)を見よ  
 大内 政弘……………87  
 大内 義興……………88  
 大内 義隆……………88  
 大内 義長……………88  
 大浦 為信 ⇒津軽 為信(つがる・ためのお)を見よ  
 正親町三条 公兄……………89  
 正親町三条 公仲……………89  
 正親町三条 実福……………89  
 正親町三条 実望……………89  
 正親町天皇……………89  
 大国 実頼……………90  
 大久保 忠佐……………90  
 大久保 忠隣……………90  
 大久保 忠世……………90  
 大久保 長安……………91  
 大久保 彦左衛門……………91  
 大崎 教兼……………92  
 大崎 義隆……………92  
 太田 牛一……………92  
 太田 資清 ⇒太田 道真(おた・どうしん)を見よ  
 太田 資正……………93  
 太田 資頼……………93  
 太田 道灌……………94  
 太田 道真……………94  
 大館 晴光……………94  
 大館 尚氏……………95  
 大谷 吉継……………95  
 大友 宗麟……………96

1996.11 255p 20cm 2800円 ①4-404-02412-6 ㊟288.2
\*北陸に絢爛たる武家文化を誇った朝倉一族の栄光と滅亡を描く労作。

朝倉 宗満 あさくら・そうてき

文明6/9年(1474/77)~弘治1年(1555) 諱は教景。小太郎、太郎左衛門尉とも。宗満は法名。戦国時代の武将。越前朝倉氏の家臣。朝倉孝景の子。敦賀郡司、軍奉行として転戦し活躍。

◇教養としての「戦国時代」 小和田哲男著 PHP研究所 2023.3 221p 18cm (PHP新書) 1000円 ①978-4-569-85438-0 ㊟210.47
\*あの合戦の実相はいかなるものなのか。有名武将たちの強さの秘密とは一。時代考証の第一人者が、最新研究によって見えてきた実像を解説。武将たちの生き方から、現代人が学ぶべきヒントを示す。「歴史街道」掲載に加筆修正。

◇戦国武将の兄弟姉妹たち 橋場日月著 辰巳出版 2020.5 195p 19cm (もって知りたい日本史〈のこごと〉) 1000円 ①978-4-7778-2543-1 ㊟281
\*有名武将を支え、時には反目した兄弟、姉妹、親戚たち…、歴史に埋もれた個性溢れる人間たちの波瀾の生涯を紹介!

【目次】朝倉宗満—朝倉氏景の弟 (ほか)

◇戦国時代の軍師たち 樋口隆晴、河合秀郎、橋場日月著 辰巳出版 2020.1 199p 19cm (もって知りたい日本史〈のこごと〉) 1000円 ①978-4-7778-2352-9 ㊟281
\*侍の時代にいわれる「軍師」は存在しなかった。しかし、常に死と隣り合わせの戦国の世において戦に勝つ確率を上げる存在は確かにいた。21人の「軍師」をピックアップし多角的に考察、その実像に迫る。

朝倉 孝景 あさくら・たかかげ

正長1年(1428)~文明13年(1481) 教景、敏景とも。法名は英林宗雄。室町~戦国時代の武将。朝倉氏7代当主。朝倉家景の嫡男。義景の高祖父。越前守護・斯波氏の重臣だったが主家の内紛に乗じて越前を領す。越前守護代。

◇朝倉孝景—戦国大名朝倉氏の礎を築いた猛将 佐藤圭著 戎光祥出版 2014.10 326p 19cm (中世武士選書 23) 2600円 ①978-4-86403-126-4 ㊟289.1
\*応仁・文明の乱で獅子奮迅の大活躍、本拠一乗谷を中心に越前一国に権力を確立する。戦国大名への成長過程を豊富な史料から詳述。家訓「朝倉孝景家々」の新解釈も提示。

◇越前朝倉一族 松原信之著 新装版 新人物往來社 2006.12 256p 20cm 2800円 ①4-404-03438-5 ㊟288.2
\*北陸に絢爛たる武家文化を誇った朝倉一族の栄光と滅亡を描く労作。

◇越前朝倉一族 松原信之著 新人物往來社 1996.11 255p 20cm 2800円 ①4-404-02412-6 ㊟288.2
\*北陸に絢爛たる武家文化を誇った朝倉一族の栄光と滅亡を描く労作。

◇歴史を変えた野望の戦国史—国盗りに賭けた勇将たちの決断 寺林峻著 日本文芸社 1993.5 251p 15cm (にちぶん文庫) 480円 ①4-537-06223-1 ㊟210.47
\*国盗りの野望に己の命運を賭け、幾多の英雄たちが闊歩した戦国時代。時に一将の動静が天下の命運を分けた。戦乱の世に生き残りを賭け、歴史の流れを変えた勇将たちの決断とその葛藤を鮮烈に描破。

朝倉 敏景 あさくら・としかげ ㊟朝倉孝景(あさくら・たかかげ)を見よ

朝倉 教景 あさくら・のりかげ ㊟朝倉宗満(あさくら・そうてき)を見よ

朝倉 義景 あさくら・よししかげ

天文2年(1533)~天正1年(1573) 延景とも。通称は孫次郎。戦国時代の武将。越前国の大名。朝倉氏11代で最後の当主。朝倉孝景の子。浅井氏と結び、姉川で織田・徳川連合軍と戦うが敗れ、のち居城一乗谷で自刃。

◇大御手の後継者問題 加来耕三著 エムティエヌコーポレーション 2023.2 253p 18cm (MdN新書)〈インプレス(発売)〉 1000円 ①978-4-295-20502-9 ㊟281
\*家督の相続、現代の企業経営なら事業の承継。すなわち次代への後継者問題は、御家の相続を決定づける最重要課題であった。組織が生き残り、その後、繁栄していくための条件とは?本書は戦国武将におけるさまざまな家督相続を取り上げ、その成功・失敗した「後継」のドラマを紹介する。まず、学べきは二百五十余年の太平を築いた徳川父子。家督相続の成功には理由があった!

◇戦国の「いい男」「ダメ男」 中島道子著 PHP研究所 2010.4 285p 15cm (PHP文庫) 648円 ①978-4-569-67421-6 ㊟210.47
\*乱世に勇名を馳せた戦国武将たち。彼らが一角の人物であったことは史実が物語るとおりである。だが、女性から見て魅力的かどうかはまた別だ。本書は、信長・秀吉・家康の天下人をはじめ、人気の武田信玄や伊達政宗など、代表的な戦国武将20人を厳選。ベテラン女流歴史作家が、各々の事跡・逸話をふまえ、「いい男」「ダメ男」の理由をズバリ指摘するユニークな歴史読み物である。

【目次】明智光秀—戦国最大のミステリア「本能寺の変」の主役、朝倉義景—「乱世のユートピア」に生まれた名家の五代目、石田三成—「天下分け目の戦い」に挑んだ豊臣政権文治派のトップ、上杉謙信—生涯不敗を誇った「毘沙門天」の化身、織田信長—「天下布武」を唱えた戦国のカリスマ、斎藤道三—下克上で一国一城の主となった「戦国の鼻祖」、佐々成政—鉄砲鳴きで信長の快進撃を助けた「黒母衣衆の筆頭」、真田

幸村—信念のために大坂夏の陣で散華した「悲劇のヒーロー」、柴田勝家—「豪勇無双」と謳われた歴戦の猛将、武田信玄—「風林火山」の旗の下、戦国最強と呼ばれた「甲斐の虎」(ほか)

◇越前朝倉一族 松原信之著 新装版 新人物往來社 2006.12 256p 20cm 2800円 ①4-404-03438-5 ㊟288.2
\*北陸に絢爛たる武家文化を誇った朝倉一族の栄光と滅亡を描く労作。

【目次】草創期の朝倉氏、長祿合戦と朝倉孝景の台頭、応仁・文明の大乱と朝倉孝景の軍略、朝倉孝景の越前平定、朝倉貞景とその時代、朝倉氏と一向一揆との対立、朝倉孝景(宗淳)と室町幕府、栄華を誇る朝倉義景時代、朝倉氏滅亡への道、朝倉氏の家臣団構成、朝倉氏の領国支配、文化と遺跡

◇朝倉義景のすべて 松原信之編 新人物往來社 2003.8 295p 20cm 2800円 ①4-404-03133-5 ㊟289.1
\*戦国大名・朝倉義景。激動の生涯を全調査。

【目次】越前朝倉氏の系譜、絶頂期の朝倉義景、朝倉義景と織田信長との対決、朝倉義景の人物像、朝倉義景の妻妾と子女、朝倉義景の生母光徳院と若狭武田氏、朝倉義景の領国支配組織と家臣団の構成、朝倉義景の家臣団(同名家、内衆、国家)、朝倉義景の文化活動と史跡・文化財、発掘された義景館と城下町の様相、朝倉義景時代の山城

◇越前朝倉一族 松原信之著 新人物往來社 1996.11 255p 20cm 2800円 ①4-404-02412-6 ㊟288.2
\*北陸に絢爛たる武家文化を誇った朝倉一族の栄光と滅亡を描く労作。

◇朝倉始末記 藤居正規著 勉誠社 1994.6 266p 20cm (日本合戦騒動叢書 4)〈年表: p261~263〉 2660円 ①4-585-05104-X ㊟289.1
\*朝倉義景は、越前一条谷に華やかな生活を送っていた。織田信長が攻め寄せた。一族の裏切りも出た。戦国時代、花と散った朝倉一族の興亡を描く。

浅野 長政 あさの・ながまさ

天文16年(1547)~慶長16年(1611) 初名は長吉(ながよし)。本姓は安井。戦国~江戸時代初期の武将、大名。尾張国生まれ。安井重継の子。浅野長勝の養子。豊臣政権の五奉行の一人。若狭小浜城主、甲斐国領主、常陸真壁藩初代藩主。

◇浅野長政—関ヶ原の戦いを仕組んだ男 平尾栄滋著 朋朋社 2022.9 212p 19cm 1200円 ①978-4-87302-771-5 ㊟289.1
\*あの豊臣秀吉が未だ17歳にして木下藤吉郎と名乗っていた頃、彼を兄のように慕いその後を追う少年がいた。年端もいかないその子とは、誰だろう、秀吉に仕え後に豊臣政権五奉行筆頭にまでの上上がった浅野長政その人である。だがしかし、彼が歴史の表舞台に立つてはならず、その人となりや業績はほとんど知られていない。調べてみればこの男は、秀吉の死後、その名を長吉から長政へと改めた。名を変えて秀吉を捨て去り、徳川家康へと接近していったのだ。権謀術数が渦巻く戦国の世を生き抜いた浅野

長政の見事なまでの生きざまを追う!
【目次】第1章 浅野長政とその家、第2章 生駒屋敷、第3章 木下藤吉郎と蜂須賀小六、第4章 浅野家と藤吉郎、第5章 弥兵衛長吉と藤吉郎秀吉、第6章 秀吉から家康へ、第7章 弥兵衛長政の隠密作戦、第8章 豊臣政権の崩壊と関ヶ原の戦い、第9章 家康とともに、第10章 弥兵衛長政の死とその後の浅野家

◇豊臣五奉行と家康—関ヶ原合戦をめぐる権力争争 渡邊大門著 柏書房 2022.5 253p 20cm 2200円 ①978-4-7601-5443-2 ㊟210.48
\*秀吉を支えた五人の武将の知られざる来歴。豊臣政権での活躍から、家康との対立、そして、関ヶ原に散るまで…歴史に咲いた「あだ花」たちの光華。

【目次】第1章 五奉行たちの来歴、第2章 秀吉の天下統一と五奉行、第3章 秀吉死後の情勢と五奉行の成立、第4章 関ヶ原合戦開戦と五奉行、第5章 関ヶ原本戦の激闘、第6章 関ヶ原合戦後の五奉行

◇満姫—広島藩を支えた加賀御前 野村昭子著 金沢 北国新聞社(制作発売) 2013.6 171p 19cm 1400円 ①978-4-8330-1941-5 ㊟289.1
\*前田家・浅野家をはじめ、徳川将軍家、尾張徳川家、公家の九条家、八条宮家との間に結ばれた婚姻関係などを中心に、満姫をとりまく人物を系図に織り込みながら、当時としては大変な長命だった加賀百万石の姫の生涯を振り返る。

【目次】第1章 誕生から興入れまで(母珠姫との別れ、寿福院のいる江戸へ、兄光高に大姫が嫁ぐほか)、第2章 浅野家の成り立ち(秀吉の養児だった長政、謀略に利家が救いの手、秀吉、家康に仕えた幸長ほか)、第3章 満姫「加賀御前」の事績(長男岩松の誕生、次男松千代を養子に、妹宮姫が八条宮家に嫁ぐほか)

◇戦国武将あの人のお顔末—図説 相関図と合戦地図で読み解く 中江克己著 青春出版社 2007.5 95p 26cm 1000円 ①978-4-413-00889-1 ㊟281.04
\*本書では、有力な戦国武将六十六人を選び出し、激動する時代のなかでどう生き、どう死んでいったのか。もっとも興味深いエピソードを中心に、コンパクトにまとめてみた。さらに人間関係を示す相関図、戦いの状況がひと目でわかる合戦地図などを多用し、見て楽しむことができるようにした。

【目次】豊臣の五奉行—政権を支えた秀吉の忠臣たちの道程、豊臣秀吉と家臣団—天下統一を成し遂げた武将たちのその後、関ヶ原の戦い—天下分目の攻防に挑む武将の終幕、大坂の陣—豊臣政権の終わりと家康の終生(ほか)

◇ひろしま人物伝 落合功編著 広島 溪水社 2002.8 144p 19cm 1200円 ①4-87440-710-2 ㊟281.76
\*本書は、広島を舞台として活躍した人物をとり上げ、解説したものである。
【目次】浅野家三代—江戸時代、広島藩のいしずえを築いた人々(浅野長政(天文十六年(一五四七)~慶長十六年(一六一一))、浅野幸長(天正四年(一五七六)~慶長十八年(一六一三))ほか)、福島正則—骨太武将の芸術での活躍(出生、秀吉と共にほか)、平清盛と厳島神社—造営説話、「平家納経」の美について(厳島と厳島神社の歴史、平清盛の生涯ほか)、頼山陽と平田玉穂—歴史を動かした男と江戸時代のキャリアウーマン(歴史を動かした男・頼山陽、江戸時代のキャリアウーマン・平田玉穂)、三浦仙三郎—吟醸酒を創った男(日本一になった広島酒、廣り酒ほか)

◇浅野長政とその時代 黒田和子著 校倉書房

◇日本武人史 小名木善行著 青林堂 2022.7 231p 19cm 1600円 ①978-4-7926-0728-9 ②281

\*古来より、武術が連綿として受け継がれ、日々鍛錬にいそんでいた武人たち。相撲の起源、八幡太郎義家、曾我兄弟、軍神広瀬中佐などを取り上げ、彼らの指し示す武芸道と共に、日本の武の足跡をたどる。

◇考証 日本武芸達人伝 綿谷雪著 国書刊行会 2014.4 495p 22cm 4800円 ①978-4-336-05796-9 ②789.028

\*宮本武蔵、愛洲移香齋、松林左馬助といった武者の知られざる逸話から、武芸十八般の内実、武芸と忍術の関係まで、虚像を排し日本武芸の真の姿を明らかにする武芸考証随筆の白眉。

【目次】武芸達人伝(愛洲移香齋久忠、塚原卜伝高幹、宝蔵院梵柳風嵐、富田五郎左衛門勢源 ほか)、武芸落穂集(武芸十八般、寛永三馬術、武書あ・ら・かると、武芸と忍術との間 ほか)

◇(図説)宮本武蔵と剣豪たちの剣法 田中普門著 講談社 2011.11 230p 26cm 3000円 ①978-4-06-217357-5 ②789.3

\*宮本武蔵・佐々木小次郎・柳生宗矩・塚原卜伝・伊藤一刀斎らの卓越した剣技を再解説する。

【目次】第1章 宮本武蔵の実像(宮本武蔵の真実に迫る、佐々木小次郎の抜刀術 ほか)、第2章 武蔵の強敵たち(新陰流剣術、富田流の小太刀 ほか)、第3章 伝統武術の世界(武術の伝統システム、武士道で最も美しい ほか)、第4章 有名な武術の流儀(大石神影流、影流一戦国時代の雰囲気や今に伝える野太刀抜刀術 ほか)

◇完本日本武芸小伝 綿谷雪著 国書刊行会 2011.2 430、28p 22cm 5600円 ①978-4-336-05345-9 ②789.028

\*塚原卜伝、上泉伊勢守、柳生十兵衛、松林左馬助、千葉周作…。時代小説でお馴染みの名前から、知られざる流派の達人まで、武芸研究の第一人者が膨大な文献を渉猟し、その真の姿を描き出す。

【目次】1増補・本朝武芸小伝(兵法、諸礼、射術 ほか)、2新撰武術流祖祿(兵学、射術、馬術 ほか)、3続・武芸小伝(鈴木兵左衛門尉吉定、平山行蔵、吉里吞敵齋信武 ほか)

◇剣豪伝説 小島英記著 筑摩書房 2009.8 375、4p 15cm (ちくま文庫)〈新潮社1997年刊の加筆・訂正〉900円 ①978-4-480-42619-2 ②789.3

\*武蔵の強さをめぐる論争、柳生一族の描かれ方と剣聖・上泉伊勢守の実像、伊藤一刀斎、塚原卜伝、無外流、示現流、伝鬼坊など個性あふれる剣豪・流派は、歴史上当のよう存在だったのか。それはまた、吉川英治や五味康祐・司馬遼太郎・池波正太郎・藤沢周平・隆慶一郎などの作家によってどう描かれてきたか。自らも剣に親しむ著者が、史実と創作の中から浮かび上がる剣豪たちの真実をえぐく。

【目次】第1部 宮本武蔵と剣豪たち(シラノはシラノ、日本一にあらざるや、飛ぶ武蔵 ほか)、第2部 反骨の剣(一刀流、夢想剣、水月移定 ほか)、第3部 個性化する(一法無外、無欲恬淡、一羽と弟子たち ほか)

◇戦国剣豪伝・諸流乱舞一斬撃無双の兵法者28人の軌跡 歴史群像編集部編 学習研究社 2009.1 270p 15cm (学研M文庫)『戦国剣豪伝』(2002年刊)の改題) 638円 ①978-4-05-901231-3 ②789.3

\*戦乱の世に、一心に剣の道に生きてきた者たちがいる。その業は電光石火の如くにして、その力は比類なき剛力とされた。しかし剣理を究め、大悟した彼らは、剣をただ人を斬るのみに使わず、むしろ人を活かし、勝負を制することを是とした。自ら研鑽と工夫を重ね、一流を成し、後世、剣聖あるいは剣豪と呼ばれた者たちの、ひたむきな生きざまを描く。

【目次】剣聖來臨一戦国揺盪期に産声を発した諸流の源(飯篠長威斎/中条兵庫頭/愛洲移香齋―“技”から“芸”へ。兵法を創成した三大潮流の祖、塚原卜伝一戦場に立つこと三七度、秘剣“一つの太刀”を編み出す、上泉伊勢守信綱―新陰流を大成した希世の剣聖 ほか)

◇戦国の兵法者―剣豪たちの源流とその系譜 牧秀彦著 学習研究社 2007.7 261p 18cm (学研新書) 780円 ①978-4-05-403463-1 ②789.3

\*戦国の世に編み出されていった兵法。暗雲たなびく激動の中で、一握りの超人たちが兵法者への道を歩んでいった。彼らの中には、小さな城持ちの武士もいた。一方で、武闘派として名高い戦国武將に限らず、知力をもって名を馳せた文人肌の武將たちも兵法、つまり剣術を好んで修業していた。東西の戦国の武人たちが魅入られた兵法と乱世の中での兵法者たちの生き様に迫る。

【目次】山本勘助と塚原卜伝(山本勘助、その足跡、京流剣術と鈴木流軍学 ほか) (ほか)

◇戦国武將 勝利の実学 火坂雅志著 勉誠出版 2006.12 266p 19cm 1400円 ①4-585-05344-1 ②281.04

\*勝利への信念と実行力、敗北にすら学ぶたかき…名將・智將に学ぶ、激動の時代を生き抜く「勝利の極意」! 歴史・時代小説の旗手による待望の人物論。

◇剣の達人111人データファイル 新人物往來社編 新人物往來社 2002.11 342p 21cm 1600円 ①4-404-02993-4 ②789.3

\*卜伝、一刀斎、武蔵、小次郎、宗矩ら剣に生きた111人のサムライ達の波乱の生涯。

◇素顔の剣豪たち―歴史紀行 小島英照著 日本経済新聞社 1998.11 243p 20cm 1600円 ①4-532-16285-8 ②789.3

\*孤剣を磨いた男たちの軌跡。柳生十兵衛、塚原卜伝、宮本武蔵…。現代に名を残す剣豪たちの故郷を巡り、巷間伝えられるところとは異なる史実を掘り起こした快著。

【目次】1 新陰流の巻、2 陰の流・タイ捨流の巻、3 神道流の巻、4 柳生流の巻、5 中条流の巻、6 一刀流の巻、7 二天一流の巻

◇NHK歴史への招待 第16巻 剣客の時代 日本放送協会編 日本放送出版協会 1990.7 230p 18cm 700円 ①4-14-018085-4 ②210.1

\*真剣勝負19連勝と伝えられる、剣聖塚原卜伝の強さの秘密はどこにあったのか。当時の剣豪たちの活躍ぶりをながめ、この敗ぶりのないテーマに迫る。宮本武蔵、荒木又右衛門が登場したという寛永前後試合の実態は。北辰一刀流を興し、剣術ブームの江戸で一躍スターダムにおどり出た千葉周作。また、明治まで生きた、最後の剣客榊原健吉の剣をめぐるとのビジネスを紹介。

【目次】秘剣一の太刀―塚原卜伝、寛永御前試合、北辰一刀流、千葉周作、最後の剣客 榊原健吉

津軽 為信 つがる・ためのぶ

天文19年(1550)～慶長12年(1607) 幼名は扇、通称は右京亮。大浦為信とも。安土桃山～江戸時代前期の武將。陸奥弘前藩初代藩主。叔父・大浦為則の養子となる。南部高信を討ち陸奥津軽地方を統一、津軽氏を称した。

◇戦国武將列伝一乱世一五〇年を彩った郷土の人物伝 1 東北編 速原ゆり子、竹井英文編 戎光祥出版 2023.4 408p 19cm 2800円 ①978-4-86403-440-1 ②281

\*混沌とした戦国の世に命をかけて郷土で戦い抜いた有名無名の武將たち。戦国時代に主に東北及び北海道南部を基盤として活躍した武將29人を取り上げ、各武將の事蹟や個性、そして彼らが何のために戦っていたのかを解説する。

◇藩主なるほど人物事典一江戸260年をしたたかに生き抜いた全国各地の名君たち 武田鏡村著 PHP研究所 2005.6 95p 26cm 952円 ①4-569-64244-6 ②281.04

\*混沌、お家騒動、世継ぎ問題、一揆、財政危機、そして維新の激動…。数々の時代の荒波を乗り切り、今なお地元で愛され続ける名藩主たちを紹介。

【目次】松前(福山)藩 松前慶広、弘前(津軽)藩 津軽為信、盛岡(南部)藩 南部信直、仙台藩 伊達政宗、秋田(久保田)藩 佐竹義宣、米沢藩 上杉鷹山、会津藩 松平容保、水戸藩 徳川光圀、宇都宮藩 本多正純、前橋(厩橋)藩 酒井忠清 (ほか)

◇全部愚耳旧聴記一弘前藩関係史料 上 添田儀左衛門貞俊著 観音寺 上坂氏顕彰会史料出版部 2002.11 1冊(ページ付なし) 21×30cm (叢書郷土史料補遺 青森県一) ①文芸書房創設22周年記念出版 複製) 62800円 ②289.1

◇全部愚耳旧聴記一弘前藩関係史料 下 添田儀左衛門貞俊著 観音寺 上坂氏顕彰会史料出版部 2002.11 1冊(ページ付なし) 21×30cm (叢書郷土史料補遺 青森県一) ①文芸書房創設22周年記念出版 複製) 62800円 ②289.1

◇全部愚耳旧聴記 上 添田儀左衛門貞俊著 観音寺 上坂氏顕彰会史料出版部 2001.3 3冊 30cm (上坂氏顕彰会所蔵手写本 38) (複製) 52800円;52800円;46800円 ③289.1

◇全部愚耳旧聴記 下 添田儀左衛門貞俊著 観音寺 上坂氏顕彰会史料出版部 2001.3 3冊 30cm (上坂氏顕彰会所蔵手写本 38) (複製) 52800円;52800円;41800円 ③289.1

津軽 信杖 つがる・のぶひら

天正14年(1586)～寛永8年(1631) 「信杖」とも書く。安土桃山～江戸時代前期の武將。陸奥弘前藩2代藩主。初代藩主為信の三男。妻は徳川家康の養女・満天姫。高岡城を築城、寛永元年には青森港を開く。

◇弘前城築城四百年一城・町・人の歴史万華鏡

長谷川成一監修 大阪 清文堂出版 2011.1 270p 20cm 2700円 ①978-4-7924-0934-0 ②212.1

\*北の大地に台頭した新興近世代名の居城から、軍都、学都への歩みをたどる。

【目次】老 城の章―「北狄の押さえ」から師団施設、公園への有為転変(弘前城と津軽領一弘前城は四万七千石の城か?、慶長十六年の築城―幕府公認領内の城郭を集約、国絵図にみる弘前城―幕府に従い城を「□」で表す ほか)、武 町の章―城下町から軍都、学都への歩み(長勝寺構と新寺構―当時の都市計画伝える遺構、長勝寺と諸宗寺院―城下へ寺社移転、藩が統制、青森町の町立で―弘前城内の屋敷配置に倣う ほか)、参 人の章―貴賤、聖俗、老若男女、貧富の別問わぬ悲喜こもごも(西洞院時慶と津軽信達一関ヶ原後京都で情報収集、信杖・満天姫・天海―幕府と津軽家の関係築く、弘前城下の家臣団―侍屋敷で一五〇人以上生活 ほか)

築山殿 つきやまどの

天文11年(1542)～天正7年(1579) 築山御前、駿河御前とも。戦国～安土桃山時代の女性。徳川家康の正室。今川一族関白親永(氏広)の娘。瀬名姫とも称されるが実名は不詳。

◇徳川家康の最新研究一伝説化された「天下人」の虚像をはぎ取る 黒田基樹著 朝日新聞出版 2023.3 242p 18cm (朝日新書) 850円 ①978-4-02-295209-7 ②289.1

\*家康についての本格的な研究が、この十数年でようやく進んできた。これまでの多くの通説が書き改められるようになってきた。ただし、関連書籍の内容は通説に依拠したままだったり、満足のいくものは多くない。現在の家康研究の到達点を示しておくことは有意義であると考え、本書を刊行した。

【目次】第1章 今川家における立場、第2章 三河統一と戦国大名化、第3章 織田信長との関係の在り方、第4章 三方原合戦の真実、第5章 大岡弥四郎事件と長篠合戦、第6章 築山殿・信康事件の真相、第7章 天正壬午の乱における立場、第8章 羽柴秀吉への従属の経緯、第9章 羽柴政権における立場、第10章 関ヶ原合戦後の「天下人」化

◇家康徹底解説一こまごまわかった本当の姿 堀新、井上泰至編、堀新ほか執筆 文学通信 2023.2 387p 21cm 2700円 ①978-4-909658-95-1 ②289.1

\*徳川家康はいかに記録されてきたのか、彼の姿はフィクションでどのように描かれてきたのか。その虚像と実像を徹底的に暴く。本書は日本の歴史史上もつとも知られた戦国武將の、若き日々から関ヶ原の戦い、死後の格化にいたるまで、14の主要テーマから追究します。歴史学・文学・美術史の諸分野から家康像にアプローチし、それぞれ最新の研究動向をふまえて論じ尽くします。

【目次】松平氏の出自(山田邦明×平野仁也)、人質時代の家康(糟谷幸裕×丸井貴史)、清須町(和田裕弘×菊池庸介)、三河一向一揆(竹岡芳明×塩谷菊美)、築山殿と松平康康事件(桐野作人×原田真澄)、三方ヶ原の戦い(原史彦×湯浅佳子)、徳川家臣団(四天王を中心に)(柴裕之×小口康仁)、伊賀越えと天正壬午の乱(平山優×網野可苗)、小牧・長久手の戦い(堀新×竹内洪介)、家康と江戸(岡野友彦×森暁子)、関ヶ原の戦い(松澤克行×井上泰至)、方広寺鐘銘事件と大坂の陣(光成準治×湯浅佳子)、家康の進化化(曾根理原

## 【あ】

## 愛洲家

愛洲 久忠	1
愛洲 宗通	1

## 赤井家

荻野 直正〔赤井直正〕	100
-------------	-----

## 赤沢家

赤沢 朝経	1
赤沢 長経	1

## 明石家

明石 掃部	2
-------	---

## 赤松家

赤松 洞松院	2
赤松 則房	2
赤松 晴政	3
赤松 広英	3
赤松 政則	3

## 赤松家臣団

浦上 則宗	82
浦上 政宗	82
浦上 村宗	83

## 安芸家

安芸 国虎	3
-------	---

## 秋月家

秋月 種実	3
高橋 元種〔秋月種実の子〕	251

## 秋田家

秋田 実季	4
安東 愛季〔秋田愛季〕	35

## 秋山家

秋山 虎繁	4
おつやの方〔秋山虎繁の室〕	118

## 明智家

明智 照子	5
明智 光秀	5
津田 信澄〔明智光秀の娘婿〕	293

## 明智家臣団

明智 秀満	4
斎藤 利三	180

## 浅井家

浅井 亮政	10
浅井 長政	10
浅井 久政	11
お市〔浅井長政の正室〕	84
京極 マリア〔浅井久政の娘〕	148
常高院〔浅井初〕	222
崇源院〔浅井江〕	226
淀君〔浅井茶々〕	454

## 浅井家臣団

新庄 直頼	224
藤堂 高虎	299

## 朝倉家

朝倉 貞景	11
朝倉 孝景	12
朝倉 義景	12

## 朝倉家臣団

朝倉 景隆	11
朝倉 宗滴	12
富田 勢源	316
前波 吉継	405

## 朝倉家その他

明智 光秀	5
足利 義昭	16

## 浅野家

浅野 長政	13
浅野 幸長	14

## 浅野家臣団

上田 宗箇	77
-------	----

## 足利家(古河公方)

足利 成氏	15
足利 高基	15
足利 晴氏	16
足利 政氏	16
足利 義明	18
古河姫君〔足利義氏の娘〕	166
芳春院殿〔足利晴氏の後室〕	369

## 足利家臣団(古河公方)

武田 信長	266
長尾 景春	335

## 足利将軍家

足利 義昭	16
足利 義澄	19
足利 義種	19

北海道・東北

蝦夷地(北海道)

蠣崎 季広 ..... 125  
 松前 慶広 ..... 413

陸奥国(青森県・岩手県・宮城県・秋田県・福島県)

蘆名 盛氏 ..... 26  
 蘆名 盛隆 ..... 26  
 猪苗代 兼載 ..... 61  
 五郎八姫 ..... 66  
 岩井 信能 ..... 67  
 岩城 貞隆 ..... 67  
 岩城 親隆 ..... 67  
 岩城 常隆 ..... 67  
 上杉 景勝 ..... 69  
 遠藤 基信 ..... 84  
 大崎 教兼 ..... 92  
 大崎 義隆 ..... 92  
 岡 左内 ..... 99  
 お種の方 ..... 118  
 鬼庭 綱元 ..... 119  
 葛西 晴信 ..... 125  
 片倉 景綱 ..... 128  
 片倉 喜多 ..... 129  
 加藤 嘉明 ..... 131  
 蒲生 氏郷 ..... 140  
 北 信愛 ..... 145  
 九戸 政実 ..... 151  
 虎哉宗乙 ..... 166  
 後藤 寿庵 ..... 168  
 白河 義親 ..... 223  
 清心尼 ..... 234  
 千 少庵 ..... 238  
 相馬 盛胤 ..... 247  
 相馬 義胤 ..... 247  
 大乘院 ..... 249  
 袋中 ..... 249  
 伊達 成実 ..... 273  
 伊達 稯宗 ..... 273  
 伊達 輝宗 ..... 274  
 伊達 晴宗 ..... 274  
 伊達 秀宗 ..... 274  
 伊達 政宗 ..... 275  
 伊達 盛重 ..... 280  
 田村 清顕 ..... 281

津軽 為信 ..... 291  
 津軽 信枚 ..... 291  
 天海 ..... 295  
 南部 信直 ..... 342  
 南部 晴政 ..... 342  
 丹羽 長重 ..... 346  
 支倉 常長 ..... 349  
 稗貫 輝家 ..... 359  
 保春院 ..... 384  
 本庄 繁長 ..... 396  
 満天姫 ..... 414  
 和賀 信親 ..... 464

磐城国(宮城県・福島県)

志野 宗信 ..... 210

出羽国(秋田県・山形県)

秋田 実季 ..... 4  
 安東 愛季 ..... 35  
 上杉 景勝 ..... 69  
 大國 実頼 ..... 90  
 お船の方 ..... 101  
 鬼庭 綱元 ..... 119  
 小野寺 義道 ..... 120  
 菊姫 ..... 143  
 虎哉宗乙 ..... 166  
 駒姫 ..... 176  
 鮭延 秀綱 ..... 187  
 佐竹 義宣 ..... 188  
 大宝寺 義氏 ..... 250  
 伊達 植宗 ..... 273  
 伊達 晴宗 ..... 274  
 伊達 政宗 ..... 275  
 伊達 盛重 ..... 280  
 戸沢 政盛 ..... 316  
 直江 兼統 ..... 329  
 蟠川 親俊 ..... 345  
 林崎 甚助 ..... 356  
 樋口 惣右衛門 ..... 359  
 保春院 ..... 384  
 本庄 繁長 ..... 396  
 前田 慶次 ..... 399  
 最上 家親 ..... 436  
 最上 義光 ..... 436

関東

常陸国(茨城県)

秋田 実季 ..... 4

---

# 伝記でたどる戦国人物 900 人

---

2023 年 9 月 25 日 第 1 刷発行

---

発行者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

---

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／シナノ印刷株式会社

---

©Nichigai Associates, Inc. 2023

不許複製・禁無断転載

〈落丁・乱丁本はお取り替えます〉 〈中性紙北越波クリームキンマリ使用〉

ISBN978-4-8169-2980-9

Printed in Japan, 2023

本書はデジタルデータをご利用いただくことができます。詳細はお問い合わせください。